

「ビスタ」は「眺望・展望」を意味し、大樹寺と岡崎城を結ぶ約3kmの直線を「ビスタライン」と呼んでいます。これは徳川三代将軍家光が、寛永18年(1641年)、家康の十七回忌を機に、祖先・松平家の菩提寺である大樹寺の伽藍の大造営を行う際に、「祖父生誕の地を望めるように」との想いを守るため、本堂から三門、総門(現在は大樹寺小学校南門)を通して、その真中に岡崎城が望めるように伽藍を配置したことに由来しています。現在大樹寺から岡崎城を望む歴史的眺望は往時のままで、門越しに望む岡崎城は、まるで額の中の絵のようです。

Q なぜ、ビスタラインの保全が必要なの?

約370年の歴史の積み重ねが重要です

岡崎市では、徳川家康公誕生の地である岡崎城をはじめ、全国でもトップクラスの歴史的・文化的資産を数多く有する風格あるまちとして、その誇りとともに、歴史と未来をつなぎ、次世代の子どもたちに継承していくという志をもって、まちづくりに取り組まなければなりません。

なかでも個人的には、江戸時代の「都市デザイン」によって創出されて以降、約370年に渡る歴史の「積み重ね」が重要であると思います。積み重ねとは、法や条例による規制がないにもかかわらず、約3kmにわたるライン上で生活されているや地権者の方が、岡崎城への眺望を遮らないような建物となるよう配慮してこられた誇りや志があり、このように継承されてきた背景からしても、まさに岡崎市民共通の資産であると思います。



注目!

図書館交流プラザ「りぶら」は、ビスタラインを守るため建物の高さを低くするとともに、ビスタラインに沿って、南北に長さ60m、幅7mの交流スペース「お城通り」を設けています。



「ビスタライン」をご存知ですか?

そのやま康男

将来にわたり守りたい岡崎の歴史的眺望

Q ビスタラインをPRして観光客誘致をしては?

誘致の取り組みや受け入れ態勢の整備をさまざまな角度から行っていますが、徳川家康ブームにわく中国人観光客誘客に対策が始まりました。

6月議会の園山による一般質問の内容が中日新聞に取り上げられました

中日新聞西三河版(2010年6月4日掲載)

中国は空前の「家康ブーム」

西三河地方の岡崎、豊田、安城の市が、中国観光客の誘致に向けて連携を...

西三河3市誘客へ連携

市長に紹介したのがきっかけ。岡崎市の提案が、三市の観光担当者が五月十日に初会合を開き、共同で中国語のガイドブックを作った。観光ライトを開発したり、観光バスを貸し出すアイデアが出たという。

「ゆかりの地」PRへ

この記事が英字新聞でも紹介されました

Q フィルムコミッションの必要性は?

ドラマや映画を誘致することで市のPRにつなげる「フィルムコミッション」は、観光客誘客や経済効果などメリットを期待できます。

撮影隊による経済効果
飲食費・宿泊費等

地元の魅力を全国配信
観光客増加

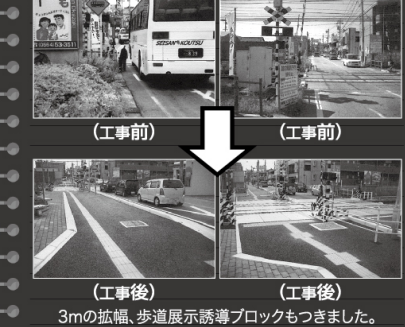
貴重な映像が財産になる
アーカイブの蓄積

そのちゃんが お答えします!

Q 地域の交通の安全確保と利便性の向上に、どんな対策をしましたか?

1. 美合駅西側踏切 拡幅・歩道工事

交通量も多く、歩行者と車がすれすれで危険だった美合駅西側踏切。長年の念願だった拡幅工事がようやく完了しました。地域生活の向上に、一歩前進できました。



2. 点滅信号がつきました(岡崎刈谷線)

重大事故の発生した美合町の岡崎刈谷線。危険な横断歩道なので、信号機設置を強く要望してきました。お陰をもちまして、平成22年3月23日より点灯が開始されました。



3. 岡崎公園・乗用車駐車場の案内

以前より大型バス用駐車場と間違えやすいと苦情のあった、岡崎公園の乗用車駐車場の案内看板を、より見やすいかたちに表示の変更をしました。

